



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月4日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <https://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 2020年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	7,904	△64.7	△3,420	—	△1,955	—	△1,290	—
2020年3月期第2四半期	22,387	22.0	3,518	63.6	3,548	64.5	2,268	70.8

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △1,299百万円 (—%) 2020年3月期第2四半期 2,252百万円 (68.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	△41.46	—
2020年3月期第2四半期	72.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	22,642	18,619	82.2	598.33
2020年3月期	26,814	21,164	78.9	680.11

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 18,619百万円 2020年3月期 21,164百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,140	△48.8	△3,400	—	△1,370	—	△900	—	△28.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	31,121,520 株	2020年3月期	31,121,520 株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	2,027 株	2020年3月期	1,905 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	31,119,571 株	2020年3月期2Q	31,119,657 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、期間前半は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、インバウンド需要の消失はもとより、本年4月の政府による全都道府県を対象にした「緊急事態宣言」の発令を受け、消費活動は急速に縮小し、かつて経験したことのない深刻な事態となりました。緊急事態宣言後におきましても、7月に入り検査陽性者数が再拡大したことなどに伴い、移動自粛及び帰省自粛の影響を強く受けるなど、引き続き予断を許さない状況下で推移いたしました。

このような環境下、当社グループは、前年度終盤より大幅な事業活動の縮小を余儀なくされている状況を鑑み、新型コロナウイルス感染症拡大の収束までの期間を「緊急事態フェーズ」と捉え、従業員の雇用維持を第一に、感染予防策の徹底、役員報酬及び賞与の減額などによる人件費の抑制、経費の削減、投資の抑制及び当座貸越枠の増額による資金流動性の確保、在庫の圧縮などに取り組んでまいりました。

また、コロナ禍の施策として、売場改良及び自家需要対策などによるブランド訴求の強化、通信販売の強化、収束後を見据えた新ブランド及び新商品開発の推進などに取り組んでまいりました。

しかしながら、売上面では、通信販売は「ルタオ」ブランドを中心に堅調に推移したものの、駅・空港・SAなどの交通拠点チャネルでのお土産需要の大幅な落ち込みにより、主要な販売チャネルは軒並み苦戦を強いられました。また、生産面におきましても、大幅な生産調整を余儀なくされ、売上原価率は悪化いたしました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は7,904百万円（前年同期比64.7%減）、営業損失は3,420百万円（前年同期は営業利益3,518百万円）、経常損失は1,955百万円（前年同期は経常利益3,548百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,290百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益2,268百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① シュクレイ

首都圏がメイン商圏のシュクレイは、駅・空港市場に比べ回復基調にある郊外店舗の強化、自家需要向け商品の強化などに注力いたしました。また、キャンペーン展開による販促強化、売場改良などによるブランド訴求力の向上に努めました。出退店では、本年8月に東京駅に開業した商業施設に新ブランド「COCORIS（ココリス）」を出店するなど計4店の出店及び2店の退店を行いました。その結果、売上高は2,259百万円（前年同期比71.1%減）、営業損失は1,129百万円（前年同期比は営業利益1,031百万円）となりました。

② ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、通信販売において、期間限定商品の投入及び会員向けカタログの充実を図り、主力商品「ドゥブルフロマージュ」、アントルメグラッセをベースとしたカップアイス「パルフェミニオン」、サンドアイス「サブレグラッセ」などによる夏ギフト対策に注力いたしました。また、直営店及び催事におきましても、冷凍ケーキなどによる自家需要対策の強化に努めました。新規出店では、本年8月に東京駅に開業した商業施設に新ブランド「PISTA&TOKYO（ピスタ アンド トーキョー）」を出店するなど計3店の出店を行いました。その結果、売上高は2,789百万円（前年同期比51.7%減）となり、営業損失は739百万円（前年同期は営業利益589百万円）となりました。

③ 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、感染収束後に備えて新商品開発の強化に注力するとともに、ドラッグストア向けなど新たな販路開拓や遊月亭ブランドなどによる通信販売の強化などに注力いたしました。その結果、売上高は1,888百万円（前年同期比67.3%減）、営業損失は727百万円（前年同期は営業利益881百万円）となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、感染収束後に備えて新商品開発の強化に注力するとともに、売場シェア拡大に向けた提案営業の強化などに注力いたしました。その結果、売上高は752百万円（前年同期比77.4%減）、営業損失は402百万円（前年同期は営業利益350百万円）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、感染収束後に備えて新商品開発の強化に注力するとともに、フレンチトースト専門店「アイボリッシュ」において、7周年記念特別メニューの投入、テイクアウト及びデリバリーなどの対策強化を図りました。その結果、売上高は729百万円（前年同期比68.5%減）、営業損失は464百万円（前年同期は営業利益268百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾及び香港）における菓子事業が含まれております。売上高は250百万円（前年同期比45.7%減）となり、営業損失は0百万円（前年同期は営業損失60百万円）となりました。なお、香港事業は本年2月に事業を閉鎖し、清算手続き中であります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、22,642百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,171百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少(3,656百万円)、受取手形及び売掛金の減少(980百万円)、商品及び製品の減少(617百万円)、投資その他の資産におけるその他の増加(653百万円)、流動資産におけるその他の増加(552百万円)などの要因によるものです。

負債は4,022百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,626百万円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少(891百万円)、未払金の減少(431百万円)、賞与引当金の減少(221百万円)、長期借入金の増加(280百万円)などの要因によるものです。

純資産は18,619百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,545百万円減少いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による減少(1,290百万円)、配当金の支払いによる減少(1,244百万円)などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.3ポイント増加の82.2%となり、1株当たり純資産は598円33銭となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)残高は、前連結会計年度末に比べ3,656百万円減少し、4,634百万円(前年同期比26.9%減)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、2,045百万円(前年同期は3,062百万円の増加)となりました。

主な要因は、売上債権の増減額981百万円、非資金項目であります減価償却費が695百万円、たな卸資産の増減額545百万円などの増加要因があった一方、税金等調整前四半期純損失1,954百万円、その他の減少額1,016百万円、法人税等の支払額892百万円、賞与引当金の増減額221百万円などの減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、525百万円(前年同期比47.3%減)となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出452百万円、無形固定資産の取得による支出66百万円などの減少要因によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,086百万円(前年同期比21.2%減)となりました。

主な要因は長期借入れによる収入280百万円の増加要因があった一方、配当金の支払額1,244百万円、長期借入金の返済による支出120百万円などの減少要因によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、適正かつ合理的な業績予想の算出が極めて困難なことから公表を見送っておりましたが、現時点で入手可能な情報及び予測等に基づき業績予想を算定いたしましたので公表いたします。

依然として新型コロナウイルス感染症の収束時期を予測することは困難な状況が続いているものの、上期実績及び足元の業績動向を踏まえ、下期は緩やかな回復基調が続くものと想定し、策定いたしております。

なお、本業績予想は、新型コロナウイルス感染症の再拡大による再度の緊急事態宣言の発令は想定いたしておりません。今後の感染状況の推移や消費動向等によって、大きく変動する可能性があります。

また、2021年3月期の配当予想につきましても「未定」としておりましたが、業績予想の公表を踏まえ、公表するものであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,291,162	4,634,316
受取手形及び売掛金	2,761,061	1,780,412
商品及び製品	1,439,981	822,954
仕掛品	40,902	83,592
原材料及び貯蔵品	597,887	627,407
その他	313,941	866,838
貸倒引当金	△745	△553
流動資産合計	13,444,189	8,814,966
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,653,471	4,548,331
機械装置及び運搬具(純額)	2,805,610	2,721,045
工具、器具及び備品(純額)	432,168	419,680
土地	2,887,139	2,887,139
リース資産(純額)	735	11,808
建設仮勘定	14,899	330
有形固定資産合計	10,794,022	10,588,333
無形固定資産	154,243	168,380
投資その他の資産		
その他	2,432,994	3,086,344
貸倒引当金	△11,235	△15,515
投資その他の資産合計	2,421,759	3,070,829
固定資産合計	13,370,024	13,827,542
資産合計	26,814,213	22,642,508
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	635,316	565,135
1年内返済予定の長期借入金	180,017	59,819
未払金	866,114	434,139
未払法人税等	900,009	8,952
賞与引当金	606,358	385,066
ポイント引当金	8,052	7,992
その他	650,382	410,545
流動負債合計	3,846,248	1,871,648
固定負債		
長期借入金	—	280,000
退職給付に係る負債	1,616,529	1,672,320
その他	186,635	198,882
固定負債合計	1,803,164	2,151,202
負債合計	5,649,412	4,022,850

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	18,655,835	16,120,980
自己株式	△2,376	△2,955
株主資本合計	21,194,420	18,658,986
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,221	1,628
為替換算調整勘定	△15,157	△32,944
退職給付に係る調整累計額	△11,241	△8,012
その他の包括利益累計額合計	△29,619	△39,328
純資産合計	21,164,801	18,619,658
負債純資産合計	26,814,213	22,642,508

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	22,387,514	7,904,784
売上原価	9,127,273	4,904,017
売上総利益	13,260,241	3,000,767
販売費及び一般管理費	9,741,426	6,421,732
営業利益又は営業損失(△)	3,518,815	△3,420,965
営業外収益		
受取利息	57	42
受取配当金	3,489	2,601
受取地代家賃	10,325	20,612
助成金収入	—	1,407,056
その他	23,747	41,122
営業外収益合計	37,618	1,471,433
営業外費用		
支払利息	915	675
その他	7,043	5,781
営業外費用合計	7,958	6,456
経常利益又は経常損失(△)	3,548,475	△1,955,988
特別利益		
固定資産売却益	116	7,277
特別利益合計	116	7,277
特別損失		
固定資産売却損	—	5
固定資産除却損	7,036	5,986
減損損失	85,667	—
特別損失合計	92,703	5,991
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,455,888	△1,954,702
法人税等	1,187,452	△664,632
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,268,436	△1,290,070
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,268,436	△1,290,070

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,268,436	△1,290,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,892	4,849
為替換算調整勘定	△9,018	△17,787
退職給付に係る調整額	3,398	3,229
その他の包括利益合計	△15,512	△9,709
四半期包括利益	2,252,924	△1,299,779
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,252,924	△1,299,779

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,455,888	△1,954,702
減価償却費	671,011	695,043
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△147	4,082
賞与引当金の増減額(△は減少)	106,766	△221,292
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	55,393	55,791
受取利息及び受取配当金	△3,546	△2,643
支払利息	915	675
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,270	△60
固定資産売却損益(△は益)	△116	△7,272
固定資産除却損	7,036	5,986
減損損失	85,667	—
助成金収入	—	△1,407,056
売上債権の増減額(△は増加)	624,282	981,176
たな卸資産の増減額(△は増加)	△188,936	545,032
仕入債務の増減額(△は減少)	45,156	△70,194
その他	△577,625	△1,016,594
小計	4,284,014	△2,392,028
利息及び配当金の受取額	3,546	2,643
利息の支払額	△1,056	△609
助成金の受取額	—	1,237,775
法人税等の支払額	△1,223,847	△892,882
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,062,657	△2,045,101
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△3,550	—
有形固定資産の取得による支出	△893,250	△452,095
有形固定資産の売却による収入	3,668	9,698
無形固定資産の取得による支出	△14,922	△66,272
敷金及び保証金の差入による支出	△39,367	△10,841
敷金及び保証金の回収による収入	29,131	34,836
その他	△79,506	△40,876
投資活動によるキャッシュ・フロー	△997,796	△525,550
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	280,000
長期借入金の返済による支出	△132,531	△120,198
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,022	△1,143
自己株式の取得による支出	—	△579
配当金の支払額	△1,244,786	△1,244,784
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,378,339	△1,086,704
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,685	509
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	682,837	△3,656,846
現金及び現金同等物の期首残高	5,659,617	8,291,162
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,342,454	4,634,316

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

(当座貸越契約)

当社及び連結子会社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当第2四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
当座貸越極度額の総額	3,250,000千円	7,800,000千円
借入実行残高	—	—
差引額	3,250,000千円	7,800,000千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	7,645,137	5,590,111	4,002,321	3,320,135	1,369,394	21,927,098
セグメント間の内部売上高又は振替高	184,667	181,307	1,775,787	9,865	948,298	3,099,924
計	7,829,804	5,771,418	5,778,108	3,330,000	2,317,692	25,027,022
セグメント利益 (△は損失)	1,031,012	589,306	881,552	350,364	268,521	3,120,755

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	460,416	22,387,514	—	22,387,514
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,099,924	△3,099,924	—
計	460,416	25,487,438	△3,099,924	22,387,514
セグメント利益 (△は損失)	△60,163	3,060,592	458,223	3,518,815

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

なお、第1四半期連結累計期間より、前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited(香港)が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額458,223千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額763,047千円、セグメント間取引消去額14,094千円、たな卸資産の調整額29,052千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△347,970千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シュクレイ」及び「ケイシイシイ」の資産グループについて減損損失を計上いたしております。

なお、当該減損損失の当第2四半期連結累計期間における計上額は「シュクレイ」38,770千円及び「ケイシイシイ」46,897千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	2,199,280	2,730,005	1,433,916	745,063	546,494	7,654,758
セグメント間の内部売上高又は振替高	59,803	59,344	454,685	6,994	182,783	763,609
計	2,259,083	2,789,349	1,888,601	752,057	729,277	8,418,367
セグメント損失(△)	△1,129,260	△739,141	△727,765	△402,836	△464,194	△3,463,196

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	250,026	7,904,784	—	7,904,784
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	763,609	△763,609	—
計	250,026	8,668,393	△763,609	7,904,784
セグメント損失(△)	△689	△3,463,885	42,920	△3,420,965

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾及び香港)における菓子事業が含まれております。

なお、「その他」のセグメントに含まれるHoney Sucrey Limitedは2020年1月開催の当社取締役会において清算計画を決議しており、同社は現在清算手続中であります。

2. セグメント損失(△)の調整額42,920千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額288,064千円、セグメント間取引消去額4,180千円、たな卸資産の調整額38,280千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△287,604千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。